

Hoppy ★ Magazine

47

[ホッピーマガジン]

◎第47号

2017年7月発行

赤坂ビール 3タイプ
モンドセレクション
2017
金賞 同時受賞

MONDE SELECTION
2017

GOLD
AWARD





【第6回】
 軽井沢国際音楽祭 音楽監督
 よこかわせいじ
 横川晴児さんと

今年16回目を迎える軽井沢国際音楽祭。ホッピーバレッジが関わらせていただくようになって4回目の夏がもうすぐやってくる。横川晴児音楽監督は、まさに手作りでこの音楽祭をつくりあげてきた人。そのご苦労と夢を聞く。

クラリネット吹きは便利屋なのかも。

石渡 軽井沢国際音楽祭の生い立ちですが、もともとはN響メンバーの方達とコンサートを催されていた？

横川 古い話ですが、兄が日本コロムビアを辞めて、軽井沢にホテルを作って経営を始めた。そこで万平ホテルの佐藤会長と一緒にFM軽井沢という地域の放送局を立ち上げ、その一周年記念で当時N響にいた私に何かイベントをやってよと話があって、せっかくなら一回こっきりの演奏会より継続的にできるものをと提案し、始まったのがきっかけです。

石渡 そのFM局の一周年でやられたコンサートが第一回目？

横川 はい、その頃は大賀ホールもなく、プリンスホテルのバンケットルームで。手作りのコンサートでした。僕とカミさんとで走り回って譜面をコピーして、いろんなことをやりました。

石渡 アーティストの人はどのようにされるのですか？

横川 僕が仲のいい個人それぞれにあたって、そのスケジュール調整をして決めます。ただ、みんなが皆んな仲がいいわけじゃない。この人とあの人は顔を合わせてはいけないとか、そこの人間関係は気をつけます。音楽家はみんなわがままだから。

石渡 そうなんですか。それぞれが個人事業主みたいなものですよね。

横川 そうです。頑固じゃないとやっていけないし、個性が演奏に結びついていくし、大事なところですから。

石渡 そのなかで音楽監督というのはご苦労も多いので

は？

横川 不思議なことに、世界中でクラリネット吹きが音楽監督をやってる例は多いんです。日本で言えば木曾福島で山本くんというクラリネット奏者が音楽監督をやっていますし、ウィーンフィルの音楽祭の監督もそうだし、フランスのプラード・カザルス音楽祭もそう。よくよく考えると、クラリネットという楽器は弦楽器と演奏する機会がとて多い。管楽器とよりも、弦とのつながりがとても深いんです。それから位置的にオーケストラのちょうど真ん中にいて、木管とも金管ともつながりがある。なんか、そのね、頼み込みやすいみたい。



石渡 他のメンバーからなにか頼まれる？

横川 指揮者に文句言うのもクラリネット吹きが多いんだけど(笑)。逆に周りが指揮者に対する意見を僕に言わせようとする。焚きつけられて私が発言せざるを得ないようになる。思い返せば結構ありました。みんな

からみると、便利屋さんなんだろうな。

石渡 そういう意味では、意見の調整役という立場でもあるのですね。皆さんとそれぞれに関係性を保っていて。

横川 あと、音域的にもクラリネットは4オクターブくらいあって、金管の下の方から弦楽器の上の方まで、一緒にやってる部分が多いんですね。そういうこともあるのかもしれない。

石渡 なるほど、全部の音域をカバーする立場だ。軽井沢国際音楽祭でアーティストの皆さんを集めることができたのも、横川さんがクラリネットだったからですね。

横川 それとN響の中では、人間関係が良かった方だったかな。みんなに声をかけると、晴児がそういうならしょうがねえやと付き合ってくださいる人たちがいましたね。

中年演奏家を、支援したい。

石渡 第一回目から来ていただいている方もいらっしゃるよとか。



横川 いますね。パーカッションの植松くんは最初の頃からずっと付き合っていたいているし、ヴァイオリンの小林恵美ちゃんとか、今回は出てらっしゃらないですけど漆原啓子ちゃんとか、長い付き合いになりましたね。

石渡 小林恵美さん大好きなんですけど、去年のユニオン





チャーチでの演奏会のエピソード、面白かった。

横川 軽井沢国際音楽祭は、毎回何かしら事件があるんです。スタートした頃は演奏会が10月で、もうその頃の軽井沢は本当に寒くて、N響の連中を呼んで弦楽カルテットをやったんだけど、隙間風はすごいわで、手がかじかんで弾けないの。でも、あの時聴いた演奏が素晴らしかったとお客様には言っていたんですね。我々にとっては心の寄りどころみたいになっていて、どうしてもユニオンチャーチは外したくない。ああいう、田舎町で、木造の古い教会で、音響も決して良くない、だけど、みんながシーンと静まり返って演奏を聴くあの感じ。雨の日はジャージャーと音がしてしまうがないんですけど。

石渡 その雨の音が激しくて、ステージから客席に降りて演奏したってエピソードが、すごく好きです。

横川 ファミリアルでね。お金をとっていながらなんだこれはなんて文句一つもおっしゃらない。そういう雰囲気をずっと大事にしていきたいと思います。クラシックの音楽祭だどうしても敷居が高くなりやすいですから、お客様と密接につながってほしいんです。

石渡 監督はおらが村の音楽祭というのが理想だとおっしゃいますよね。ユニオンチャーチでのコンサートがまさにそれですね。

横川 仰る通りです。お金さえ出せば著名な演奏家が来てくれるでしょうが、高いお金とって一晩でというのは、なんか味気ないんですね。私は、これをいうと怒られちゃうかもしれないんだけど、中年支援をしたいんです。

石渡 中年支援？

横川 自分を振り返ってみても、一番しんどいのは中年だったなと。若手の支援はいろいろあるし、若いのはほっといていいんですよ。若い時に国際的なコンクールで賞を獲ったり

して、その後もずっと地道に活動を続けて、今素晴らしい演奏家になっていても、そこには全然スポットが当たらない。日本でも世界でも。だから、いいキャリアを積んだ素晴らしい演奏をしている人間を支援したいというのが、僕の一番の思いなんです。そういう演奏家を集めたら絶対いい音楽ができているのが一つ。それと国際という名前をつけたのは、私が留学していた頃、同級生でたいしてうまくもなかった連中でも、フランス人であるがためにあちこちの演奏会に呼ばれていく。でも、留学生である私には全然声がかからず、寂しい思いをしていたんですね。そういう思いを日本にいる外国人にさせてはいけなと思って。日本に来て、オーディションを戦い、勝ち抜いて日本のオーケストラに入ったり、活躍している人たちを呼びたい。まあ、半分は打算もあるんですけど。

石渡 打算、裏コンセプトですか？

横川 オーストリアやドイツから一人呼ぶと100万200万になっちゃうから、例えば奥さんが日本人で、夏に奥さんの里帰りに一緒についてきたりとか、そういう演奏家に声をかけて、日本人と同じギャラだけどそれでよければどうですかと。

石渡 なるほど、名案、妙案。

横川 それで出演してくれた人が、今まで随分いましたね。日本にいる連中は、夏、湿気に参っちゃっているの、じゃあ軽井沢においでというと喜んで来てくれます。

石渡 軽井沢でもいろんな音楽祭が催されては、2〜3年で終わっています。そんな中で16年間続けてこられたというのは、すごい歴史といえますね。

横川 だから、これはスポンサーのおかげです。石渡さんに会えて、初めてですよ、私たちが身を委ねていられるのは。



軽井沢国際音楽祭は、どこに向かうか。

石渡 これからもずっと続けていくとして、横川さんはどんな音楽祭にしていきたいですか。

横川 私は花火と音楽をやってみたい。イギリスのお城でやっているのが有名なんです、町の子供たちも含めた何百人という規模で王宮の花火という曲を演奏する。大音響でやって、その後ろで花火がどかーんと上がる。

石渡 海外の演奏会ではよく花火が上がってますよね。

横川 そうすると何十万人と集まっちゃう。

石渡 日本でやるならどこがいいですか。

横川 軽井沢でやればいい。花火大会をしているんです。でも音がうるさいからと大賀ホールでの演奏会はその時期にない。もったいないことです。一緒にできるのに。

石渡 平井実行委員長が、音楽祭から芸術祭にしたいとおっしゃっていましたね。

横川 まさに、今の話と通じるものがありますよね。今、うちの音楽祭に欠けているものは、地域との一体感です。時期的に軽井沢が一番忙しい時の開催で、年間700万人のうち400万人が7〜8月に集中している。軽井沢の人たちはともかく忙しくて聴きに行けないというところで、どうしても地域との一体感が作れない。東京や世界から演奏家が来て、終わったら帰っちゃう。おらが村の音楽祭にするためには、軽井沢町民がおやきを家で作ってきて、演奏家のみんなと一緒に食べたり、そういう交流が欲しい。

石渡 なるほど。

横川 おらが村の音楽祭というのを町の人たちにも感じて欲しい。その一体感をなんとか作れないものかというのが目下の課題です。町中が音楽祭で盛り上がっているような、音楽祭饅頭でもなんでもいいんです、お祭りとしての一体感をこれから作っていききたい。そのためには音楽だけじゃなくて、花火だって、絵画だって、氷の彫刻だっていい。そういうものを取り込んだイベントにしていきたい。東京からわずか一時間で外国にきたみたいな環境の中にいられる。日本の真ん中であって、こんな地の利に恵まれたところでの音楽祭ってないんですね。だからもっと気軽にみなさんにきていただけたらいいと思います。一回来てくれれば。

石渡 そう、絶対ファンになる。

横川 それだけの自信はあります。

石渡 音楽祭に誘った友人はみんなリピーターになってますもん。

横川 演奏家も、実はお客さんともっと仲良くなりたいんですよ。声をかけてくれば一緒に飲みに行きたいんですよ。

石渡 お酒って、そういう意味でも接着剤になれそう。

横川 なりますよ、とつても。

石渡 今回、事前の東京と軽井沢で「横川晴児と飲む」というプログラムがあります。もう晴児さん体張って、大丈夫かなと思う。

横川 構図としては、ちっちゃな場所のそちこちで飲み仲間をいっぱい作って、じゃあ年に一度軽井沢集合ねって、みんなで集まって、また軽井沢で飲むみたいなこと。結局、人と人のつながりがのって最終的に離れちゃうんですよ、最後は人間のつながりの濃さがものをいう。

石渡 だから、一年にいつべんだと記憶が薄れちゃうから。その薄れた人に軽井沢に再び来てもらうのは大変なんですよ。

横川 軽井沢に来てくださるお客様全員と知り合いになっていたいと思えます。

石渡 私はもっともっと勉強して、いつか石渡プロデュースで一つのプログラムをやらせてもらうのが夢です。

横川 やりましょう。

石渡 それから、軽井沢ではないんですけど、赤坂のいろんなところで演奏会ができたらいいなと思っています。

横川 先日のおべ飲まの氷の会場も使えますね。

石渡 あといくつかのお店でいろんなジャンルの音楽家が演奏するみたいな。

横川 うんうん、やりましょう。

石渡 音楽のある食べ飲ま。

横川 音食べ。

二人 いいですねーっ！



TOKYO DRINK

issue#10

崖っぶちの青春。



西は立川のあたりから東は世田谷にかけて、国分寺崖線というものがある。武蔵野地の西のきわを流れる多摩川が10万年以上かけてすこしずつ台地を削り取ってできた崖の連なりである。その河口寄りの最後の部分がちょうど田園調布の一带になる。この閑静な地の散歩は、息を弾ませるほどの健脚を必要とする。

田園調布雙葉学園はまさにその地形の中にあり、そこに通う女子たちは、日々足腰を鍛えることとなる。とくに中学高等学校の校舎の横の坂は急峻で、車道は、アスファルトでは夏の日差しで溶けて流れるためにコンクリート舗装で、そこには滑り止めに輪っか状の刻みが穿っており、歩道には階段がつくほどだ。この近辺の邸宅のガレージには4WDの高級SUVが収まっているが、べつにハリウッドセレブの真似をしているわけではなく、誠にもって実務的な理由によるものだと推測される。電動ママチャリでは買い物に行くにも難儀をするだろう。

冬に雪でも降ろうものなら、校舎横の坂道は車の往来が途絶え、学舎の乙女たちの独壇場となる。かつてホッピーミーナは、段ボールをソリ代わりに、スカートが翻るのもいわず坂を滑り降りたという。豊かな人間形成の場では、遊ぶことにも創意工夫を旨とし道を切り開くことに果敢であれという教えが、あるいはあるのだろうか。ホッピーミーナは、のちに大学でスキー部に籍を置くことになるのだが、その素養は雙葉時代に培われたのかもしれない。

急坂を上り下りしたついでだ、九品仏からひと駅先の自由が丘まで、電車を使わず歩いて行こう。20分ほどでホッピーが飲めるこかげ酒場にたどり着く。駆けつけの一杯を3冷のホッピーでいただく。レトロポップなカウンターの向こうにビールタップが6つある。生のクラフトビールが飲めるというわけだが、この店ではホッピーもジャパン・オリジナルのビールの仲間という捉え方をしている。「モダンな旬の飲み物だと思います。若いお客様からのご注文は多いですよ」と店長の菅野さんはいう。美桜鶏手羽元のグリル焼きにかじりつき、自由が丘ポテサラと3種盛り合わせを楽しむうちに、お代わりしたホッピーもなくなった。それほど喉は渇いておりホッピーがうまい。これも国分寺崖線のおかげである。

こかげ酒場

東京都目黒区自由が丘2-15-6 2F

電話: 03-6421-2767

営業時間: 17:00~24:00(日~

木、祝日) 17:00~26:00(金、土、祝日前)

お取り扱い商品: ホッピー、黒ホッピー、ガラナ

「TOKYO DRINK」では、東京の飲みものとしてホッピーをいろいろな角度から眺め、新しい表情を追い、すてきな飲み方提案も含めてご紹介していきます。



Report

節目を越えて、さらなる飛躍。 第74期経営計画発表。

4月3日、東京六本木アカデミーヒルズにおいてホッピービバレッジ第74期経営計画発表会が行われた。今年は二部構成となり、第一部は第73期の社員表彰と第74期の辞令交付式、第二部が経営計画発表という式次第で執り行われた。



第一部◎第73期社員表彰及び第74期辞令交付式

表彰式の最初は、永年勤続表彰。今村岳彦、南部重治、小澤和成、熊谷朋文、大森啓介、藤咲正、丹野克郎、そして、新卒1期生の唐澤舞と原知代が表彰された。今年、1期生が入社して丸10年を迎えた。他の7人も10年以上の勤続となる。記念品として、社長が各人をイメージして選んだ万年筆とインクが贈呈された。記念品はこれ以下の表彰でも同様。

続いて、第73期社員表彰では、敢闘賞が大石早希子、小林和幸、熊谷朋文に。熊谷は待望の赤ちゃんが産ま



れそうでこの日は欠席だったがWの喜びとなった。ベストチームプレー賞はR20プロジェクトに取り組んだ特別編成チームに。R20とは本誌P12～



P13でもご紹介しているホッピーの新瓶・新P箱の導入プロジェクトである。旧製品との切り替えには幾多の難題が立ちちはだかったのだが、全部門が一丸となり無事それを乗り越え、トラブルなしでの切り替えを行った。続いて、殊勲賞は鈴木隼人が受賞。NEO48導入での奮闘が讃えられた。副賞として記念課題図書が12冊贈られた。最優秀社員賞は田代哲也に。NEO48の導入とR20プロジェクトという生産技術部門の大事業に貢献。特にNEO48導入にあたっては、関わったKHS社から彼を欲しいというリクルートの要請もあったほど優秀な能力を発揮した。

田代には旅行券と12冊の本が贈られた。そして、社長賞は、横山部門長。NEO48の大事業に取り組み、降って湧いたトラブルに対処し、社長からの雨あられのプラチナノックに耐え抜いて、調布工場の新時代の扉を開いたその功績に対して贈られた。今年は社長賞がもう一人、藤咲所長が表彰された。営業部門のリーダーとして部下のマネジメントに尽力したことに対して。彼は、今年から新しいプロジェクトとして、神奈川営業所所長となり国内の基盤強化を手がけることになる。通常通りなら、表彰はここで終わる。しかしホッピービバレッジでは、なにごとに



おいでも、社員も社長も仕掛ける。ハプニングは、スーパー社長賞だった。そこで現れたのは、大森統括GMの絵美夫人と娘の美空さん。それまで社員表彰の司会をしていたGMは言葉を失っていた。この13年間、家族を顧み



ず働いてくれた。こんなに家に帰らないパパなので、社長賞の半分は夫人と娘のお二人に捧げたいという社長の気持ちと、全社員たつての希望で、自分を休める旅に出て欲しいと旅行券が手渡された。

第二部◎第74期経営計画発表

前期を振り返ると、昨年は調布工場への未来投資年度だったといえる。そして、売上げ40億円の悲願の目標を達成することができた。

NEO48は、主にKHS社の最新の機械で構成されているが、これまで新しい機械を買うことすら容易ではなかったことを考えると、夢のようなことだ。忘れてならないのは、極東のマイクロブリュワリーのために日本とシンガポールとドイツで、多くの人たちの努力があったことだ。そして、R20プロ



ジェクト。ビールケースと同じサイズにすることで、取り扱いやすくなった。第73期を総括すると、第3世代感動工場NEOプロジェクトの順調な進行、NEO48やR20プロジェクトを通じての全社組織の成長、CSR活動のさらなる充実、悲願の40億円達成と、ホッピービバレッジが明らかに新時代に突入した象徴的な一年と言える。

さて、第74期の経営計画にあたり、ホッピーミーナは1997年の入社から100歳になる2068年まで自分の年表を作った。過去を振り返ると、ほぼ3年で一つのテーマがあった。これまで急いでことを進めていると思っていたが、案外丁寧に時間をかけてやっていることもわかった。年表を作ったことで、過去の歩みが明確になり、これから先の展望もわかった。

そこで、今期の売り上げ目標は44億円。2018年からは仕込み棟の設備を充実。その完成によって第3世代感動工場プロジェクトが完遂する。組織デ



ザインにも手を入れ、第3の故郷とも言える神奈川に営業所を開設。また、長期休暇制度を改正。入社5年以上は、土日を合わせて9日間の休暇が取れるようにした。業績が上がっているぶん仕事もハードなのでメリハリが必要、休暇取得を促進する構えだ。最新のニュースとしては、この度財団法人の設立認可が下りた。おもにCSR活動のために、本業と切り離れた組織の必要性を感じていたが、それが実現の運びとなった。さらに、まだ公開はできないが、創業120年を迎える2025年度のドリームプロジェクトも発表された。

赤坂ビール3タイプ、揃って金賞受賞。



この度、赤坂ビールのピルゼン、ミュンヘン、ルビンロートが揃ってモンドセレクション2017の金賞を受賞。5月29日、地中海の小国マルタ共和国でその授賞式があった。赤坂ビールは今回が初出品だったが、いきなりそのクオリティが認められたこととなった。赤坂ビールは、二代目石渡光一現会長が地ビール免許を取得して作ったホッピービバレッジ初のビール。このビールがきっかけとなり、ホッピーミーナがホッピービバレッジへの入社を決め、やがて家業を継ぐことになったという因縁をもつ。ルビンロートについては、ホッピーミーナが初めて名付け親になった商品でもある。赤坂ビール発売から21年、これもひとえにご愛顧いただいている皆様のおかげと、改めて深く感謝する次第である。次は最高金賞という新たな目標も生まれた。生産技術部門 横山部門長には、何やら秘策があるらしいが、それはまだ秘密。技を磨き、味を鍛え、次を目指す。



NEO HOPPY

1973年(昭和48年)からなので足掛け44年間使っていた瓶を、今年新しい瓶に全面変更しました。ややずんぐり型のデザインとなり、見た目にもずっしりとした安定感があります。ガラスも少し厚くなり、その分重量も増しました。旧瓶と持ち替えてみると、明らかにニューボトルの方が重いのがわかります。ガラスの肉厚を増した理由は、瓶の強度をより高めるためです。肩の部分で「梨地」にして極小の凹凸をぐるりとめがらせたのも、耐衝撃性の向上を狙ったデザイン。一番ぶ



なで肩から
マッチョ型へ。
耐衝撃性を向上させた、
新リターナブル瓶。

つかりやすい部分を傷つけにくくするための工夫です。肉厚になって光が通りにくくなり、中味の鮮度をより長く保てるようにもなりました。また、強度が増したことでリサイクルできる回数も増えました。瓶を長く使えるのは、環境保護の面にも寄与しています。

ホッピーと黒ホッピー、ともにリターナブル瓶のニュータイプです。お店で飲むときなどに、手にとってご覧になってください。新しい瓶も愛していただけたらうれしいです。

今までの瓶。長い間お疲れ様でした



瓶と箱が新しくなりました。

ホッピーをより良くする総合的なプロジェクト、それがNEO HOPPYです。前々号でご紹介したホッピーの新しい生産設備NEO48もその一環でした。今回は、新しくなった瓶と箱についてお伝えします。

ビールケースに 重ねられる、 オールニューの P箱。

リターナブル瓶を新しくしたタイミングで、運搬用のP箱も新しくなりました。これまでのP箱はビールケースとサイズが異なるので、上下に積めず、酒販店の店頭でも別々に置かざるを得ませんでした。これはお客様にとっても扱いにくい、ホッピー以外の瓶を無理に入られると、瓶の破損につながりかねません。箱の開口部をビールケースと同じサイズにすれば、これらの問題は一気に

解決します。たかが箱ですが、これを全面的に交換するとなるとかなりの大事業。それなりの投資も必要だし、交換のタイミングもうまく計らなければなりません。そのために、R20という会社を横断するプロジェクトチームが作られ、この難事業に取り組みました。ちなみにRはリターナブルのR、20は新ケースが20本入りであることを示しています。生産技術部門、営業部門、日々の受注

を請け負うお客様サポート課、そして財務部は、毎日午後3時からテレビ会議で合同会議を開き、需要予測をより精密に割り出し、製造数を調整し、旧品から新瓶&新ケースへの、無駄なく無理なく安全確実な移行を成功させました。酒販店や料飲店のお客様からは、「扱いやすくなった」「便利になった」とのお声をいただき、20本ならとケースでのご発注もいただけるようになりました。



大人の部活

7

おいしいものを求めて街に出て、楽しくホッピーを飲んで親睦を深める大人の部活。今回は、ガツ刺しでガツガツ行くぞ。



ホッピーのソウルフードは、ガッツだぜ。 「ガツ刺し部」

なぜが語尾が「だぜ」になるのは、ガツのせいだぜ。大人の部活、今回は西葛西の立ち飲み屋「待夢」さんで、ガツ刺しを堪能する。夕方お邪魔したら、もう店は満杯。すでに飲んでいるお客様にスペースを空けていただき、なんとか潜り込むことができた。ガツ刺し部のメンバーは、今回はホッピービバレッジ社員+ガツ刺しオーソリティ2名の混成チーム。三々五々、お店に集まりガツ刺しをがつつ食べて熱く語ろうという趣向だ。とにかくにも、先ずはホッピーで乾杯。店内を見回してみると、ホッピーを飲んでいるお客様がたくさん。早速仲間入りできた気分である。ガツ刺し部のメンバーは、石津香玲良、伊藤健介、佐藤千穂。オブザーバー参加が原知代。そして、ガ

ツ刺しオーソリティとして、座布団回しを隠し芸に持つ山田さんとその同僚椎名さんが参加。椎名さんはお住まいが西葛西で、毎日の通勤時にこの店の前を通っていた。今回、この店を紹介してくれたのは、椎名さんである。山田さん

のご自宅も西葛西で、この店からわずか30秒という超地元。だが、じつはこの店はお初。以前から気になっていたもので、今回ようやく来られてうれしいという。

さて、ガツ刺し部員には、なぜガツ刺しなのかを問いたださなければならない。まずは伊藤健介を取り調べる。

「僕はあの頃くやしさとガツ刺しを噛み締めて生きていました」。なんだ、このジュニア文学的なつかみは。彼は学生時代に焼き鳥屋でバイトしていた。そこで失敗ばかりしていたのだという。オーダーミスをやらかし注文と違う料理を持っていったのは叱られ、卓番を間違えてはうろろし、そんな自分が情けなく、自宅に戻れば

膝を抱えてむせび泣いていたそうだ。長身の伊藤が体育座りしたら服を着たパンタグラフに見えるなど思いながら聞いていたが、その頃からガツ刺しは知っていたらしい。案外老成しているタイプか。休みの日は大抵酒場巡りをしているという彼だから、ガツ刺しも随分食べてきたに違いない。悔しい思いとともにガツ刺しを飲み込んでいた青年は、社会人になってもまだ身長が伸びているそうだ。2メートルを超えるのは2020年あたりか。成長が楽しみである。

次は、佐藤千穂だ。「内臓系はそれまでダメだったのですが、内定者時代に赤坂の尻白様でガツ刺しをいただいてから人生が変わりました。ホッピーもその時が初めてでした。今では大好きです」。そう語る佐藤だが、彼女がガツ刺し部になるのは、必然だった。本人も気づいていない理由がある。それを紐解いてみよう。普段の彼女からは、殺人的スピードのスマッシュを放つ元バドミントン部だったという姿を想像する人は少ないかもしれない。そう、彼女はバドミントンの名手なのである。バドミントンのラケットに張ってある糸をガットという。もともとは羊の腸を薄い幕状にしてねじり撚り合わせた弦のことだ。ガットとは、腸など消化管を表すgutのこと。ガットギターというのもある。バイオリンもガット弦を使う。gutの複数形



はguts。ガッツだぜの、ガッツ。ガツ刺しのガツは英語だったのだね。つまり、ガットを張ったラケットを縦横無尽に振り回していた佐藤が、ガツ刺し部となるのは必然。これほど明快な論理はない。さあガツガツ食べよう。

ガツ刺しを初めて食べたのが尻白というのは、石津香玲良も同じだ。「尻白様では胡椒の効いたガツ刺しでした」と割り箸を噛むように思い出す石津だ。「辛味噌味もおいしかった」とさらに味の記憶を辿るのである。いまでは、店に入りメニューにあれば必ず頼むのがガツ刺しだという。「ポテサラ並みに店を表す料理だと思います。茹で加減、切り方など個性が出ます。この店はニンクとネギが特徴。そして、278円(税込み300円)と激安。赤坂なら5~600円払いたいおいしさです」。さすが元祖オタマイク香玲良嬢、的確な食レポだ。待夢のガツ刺しは、柔らかめで、塩がほどよい塩梅でごま油の風味を効かせてある。ぐびぐびとホッピーも進むのである。

そこに、ニューヨークから飛んできたホッピーミーナが乱入。たちまち店は大騒ぎ。山田さんも椎名さんも実はホッ



ピーミーナOL時代の同期で、たちまちプチ同期会の様相となった。ホッピーミーナもガツ刺しは大好き。JC時代は、若さも手伝って、ガツ刺しをワンコ蕎麦のように食べていたらしい。高タンパクで低脂肪、コラーゲンたっぷりビタミンB1や鉄分も多く含むガツは、美容にもいい食べ物なのだ。そして、ガツ刺しは、現会長が居酒屋を始めた時に小田原の人気店柳屋から教わってメニューにし、のちに尻白に伝えたという、ホッピーにとってもソウルフードなのだ。「このガツ刺しは、塩加減とか尻白のそれに似ている。また来たいと思わせる味ですね」。

乾杯を繰り返す一行は、ついに店のホッピーをすべて飲み干してしまうのだった。



待夢

東京都江戸川区西葛西5-1-5
電話：非公開
営業時間：14:00～翌1:00(不定休)
(日・祝定休。ただし土曜日が祝日の場合、営業)
お取り扱い商品：ホッピー

とにかく、安くておいしいから客が途絶えない。ホッピーセットは300円(税込み)。シャーベットホッピーは320円(同)。ガツ刺し300円(同)。キャッシュオンデリバリーの明朗会計。清潔で明るい立ち飲み店だ。



レゲエを着にホッピーを飲む。

仕事を終え、駅から自宅へ帰る道すじに、ちょっと気になる店があった。人々が寝静まった遅い時間に通りかかると、いい感じの音楽が漏れ聞こえてくる。ある夜、店のドアに、CDジャケットサイズの一枚のイラストが貼られていた。ボブ・マーリー&ウェイラーズ。目がそこに釘付けになった。知らない店に一人で入ることなど滅多にない。しかし、彼は勇気を出して、引き戸を開けた。迎えてくれたのは、親しげな笑みの店主ヒロさんと店内に流れる曲だった。見れば、カウンターの奥にターンテーブルが2つあり、そこでアナログ盤が回っていた。彼は、思い切って店に入ってみようとした自分の決断を少し誇らしく思った。

横山健一。ホッピービバレッジ調布工場 生産技術部門の部門長である彼が、かつて六本木の星条旗通り沿いのビルの地下にあったバー・クラブ「SONORA」でDJをしていたことを知る人は少ない。かけていたのはレゲエ専門。それも1968年から69年にかけてのスキンヘッドレゲエ。客はなんでレゲエ

ばかりなんだって顔をしていたと、横山は当時を思い出しながらいうのだった。仕事をしているときの横山とレゲエとがどうしても結びつかないのだが、レゲエが好きになった理由を語り始める横山は、さらにイメージと違う。なんと、レゲエが好きになったきっかけはパンクだというのだ。

もともと彼は1970年代のアメリカのパンク・ロックバンド「ラモーンズ」が好きだった。イギリスのパンク・ロックに大きな影響を与えたバンドだ。そこで、イギリスのパンクバンドを聴くうちに、彼らの音楽的バックグラウンドに興味を覚えた。彼らが聴いていたのはどんな音楽だったのか

を探っていくと、それがレゲエだった。そこで、今度はレゲエを辿ってみた。ジャマイカは1959年に自治権を獲得し、62年には英連邦王国として独立。その頃に生まれた音楽がスカだった。その後、スカよりもゆっくりとしたロックステディが流行し、そのロックステディも60年代の末期にはレゲエに取って代わられる。厳密には、ロックステディ→アーリーレゲエ→レ

ゲエとなるのだが、さらに細分化すると、ロックステディとアーリーレゲエの間に、スキンヘッドレゲエというカテゴリーが存在する。この1968年から69年のわずかの間だけのスキンヘッドレゲエに横山はハマった。なんてマニアックなんだ。イギリス政府はジャマイカなどの植民地にイギリスの市民権を与え、移民としても受け入れていた。彼らが持ち込んだジャマイカン・ミュージックがロンドンの音楽シーンの背景にあったのだ。

この店に初めて入ったとき、うれしいことにホッピーがあった。そのときはクラッシュアイス+レモンで出されていたが、いつしか3冷になっていた。「私がそう言って変えたのではなく、ヒロさんが自ら研究して3冷にされたんです。一度工場にジョッキを買いにも来られたそうです。買えなかったけど。」と横山はいう。店主の凝り性で究明好きなところは横山と馬が合いそうな気がする。もちろん音楽も。「ヒロさんは私なんかよりはるかにくわしいです」。店には、LPレコードがジャンルを問わず1000枚ほどある。この夜は、横山のためにレゲエがずっとかかっていた。

横山は部門長という立場で生産技術部門をリードするが、

現場に行くときでもついつい手を出しそうになる。オペレーターとして自ら手を動かしたい衝動が未だにあるという。機械が好きなのだ。お店には週一ペースで通っていたというが、NEO48導入後は少し足が遠のいた。激務が続くと、音楽が欲しくなる。父には、いつも「いい音楽を聴け」と言われていた。「勉強しろとは言われなかったですが、いい音楽を聴けとはよく言われました。今でも、ちょっと疲れているようなそぶりを見せると、音楽を聴いているかと言われます」。横山健一の自宅には、DJをやっていた当時からシングル盤が山ほどある。実家にはそれよりも多くあって、選りすぐりを今の部屋に持ってきた。テレビを減多に観ない彼は、レゲエが一番の着だとホッピーを飲むのである。



LPレコードと3冷ホッピー。

今年の6月で4年目の店は、西調布駅からまっすぐ北に歩いたところにある。LPレコードはリクエストにも応じてかけてくれる。ジャンルを問わず音楽への造詣が深い店主ヒロさんと、音楽談義をしながら3冷ホッピーを飲むひと時は、なにものにも代えがたい。



音森

東京都調布市上石原1-31-16
電話：0424-88-4806
営業時間：18:00～24:00(日曜定休)
お取り扱い商品：ホッピー

石 渡 光 一

Autobiography of a storm by Koichi Ishiwatari

嵐の自叙伝

第二十四回

「羊のマーク？」編

×サワーの大攻勢で、ホッピーの売り上げが落ちていた頃、そのまま手をこまねているわけにはいかず、僕はいろんなことをした。ホッピーの黒タイプを試したのもその頃だ。ハーフブラックというのをつくり、前回話したハワイ行きの時に持って行こうとしたら、よしの方がいいと忠告を受けた。ハーフもブラックも向こうではあまりいい言葉ではないからというのだ、それならばと、スリークォーターという名前にした。4分の3。斜め上から投げつけるピッチャーのフォームがそうだ。おしゃれだなと思ったが、よくわかんないよね。だから、そんなに売れなかった。それもこれも、ホッピーをどう売ろうかという手立てのひとつだった。結局徒労に終わったけれど、戦っていたのだ。

×サワーに対抗してうちもレモンハイを出したことは、前回もお話したが、それに続いて、梅、グレープフルーツ、しそ、青リンゴと次々にサワー類の品目を

増やしていった。そして、ウーロン茶も出すようになったのだが、それらはすべて最初に作ったレモンハイの瓶に入れて売っていた。サワーのバリエーションが増えていったのは、お店からの要望に応じてのことだったが、それぞれの瓶を用意する時間もなく、後手に回っていたのはたしかだ。ともかく売らなくちゃという気持ちだった。だが、ある時客先で言われた。「レモンハイと瓶に書いてあるのにウーロン茶が入っていたら戸惑っちゃうよ」。王冠には書いてあるのだが、店が忙しい時など確認しにくいのはたしかだ。ご意見ごもっともで、ひたすら恐縮するしかなかった。それで、なにを入れてもいい、汎用性のある瓶をつくることにした。幾人かのデザイナーに依頼してデザイン案を作ってもらったのだが上がってくるデザイン案が、どれもみんなホッピーになっちゃってる。これじゃ元も子もない。これは困ったな、どうしたものかと途方にくれた。デザイナーだって、きつとなにをデザインす

ればいいのか戸惑っていたのだろう。上がってきたデザイン案を見比べているうちに、一つの案に目が止まった。メインのマークではなく、瓶の肩のところにあるお飾り的なサブデザインを見て、僕にはピンと閃くものがあった。この案を作ったデザイナーによれば、ホッピーを凝縮したものだという。よく見ると、PとYも入っている。これだ。これでいこうと、このデザインをブラッシュアップしてもらい、メインのマークとして作り変えてもらった。もう明日にでも欲しいから、ともかく早く作ってとデザイナーをせっつき、特急でこしらえたのが今のグリーンのボトルだ。ちょっと羊っぽく見えるマークには、よく見るとHとPとYが隠れている。それらがうまくまとまって、ホッピーだけどホッピーじゃないデザインとして完成した。これなら、どんなドリンクを入れても、いける。昭和60年(1985年)からだから、もう32年も使い続けていることになる。





13歳の誕生日を迎えた3日後、祖父が危篤になった。その日は、ピアノが来る日だったが、それどころではなくなった。両親とも病院に駆けつけ家が留守になってしまうところ、代わりに叔父が納入に立ち会ってくれた。5日後、祖父は天に召された。ピアノは、祖父から私への最後のプレゼントとなった。



それから大学生までピアノを弾き続けていたが、次第にピアノから遠ざかった。それが、最近になって、気持ちが再びピアノに引き寄せられていた。軽井沢国際音楽祭に携わったことも大きいのだろう。もう一度ピアノが弾きたいという思いが強くなっていた。両親の家でオブジェ化しているピアノを我が家に呼び寄せるために、年明けからリフォームが始まり、そして3月6日、おじいちゃんのピアノが我が家にやってきた。その日は祖父の命日という巡り合わせ。日程を段取りしたわけではない。我が家になっている部屋は、かつて祖父が住んでいた場所でもある。偶然か必然か、36年ぶりに再び祖父からのプレゼントを頂いた思いがした。

h i - t o - t e - m a

おじいちゃんのピアノ

そのYAMAHAのグランドピアノには、G3という刻印が記されている。四半世紀前にこのピアノが作られた頃は、まだ良質の木を惜しみなく使えた時代で、「弾きこむほどに音が良くなる」と、このピアノを鳴らされたプロの先生が太鼓判を押してくださった。もっといい音になる。弾くことでピアノが育つ。なんて素敵なのと手間だろう。



家にゆっくりという時間はほとんどない日々を送っているが、その合間を縫ってピアノの前に座る。鍵盤に指を落とす。その時間が、そして鳴り始める音が、愛おしさを持ってこの身を包む。祖父と無言の会話を楽しんでいる刹那でもある。

なかなかピアノの前に座ることができない「ご充実様」な日々を送っているが、一旦ピアノを弾き始めると、楽しい。小さい頃は嫌々練習していたのだが、今は、1時間など瞬く間だ。小さい頃は毎日1時間ピアノの練習をしていた。していたというより、やらされていた。やらないと母に叱られるので仕方なくだった。そんな私が、ピアノがこんなにも楽しいだなんて、自分でもびっくりした。

去年の誕生日に軽井沢国際音楽祭の音楽監督横川晴児ご夫妻から頂いたプレゼントはピアノの先生だった。5回分のレッスン料とプロのピアニスト。以前から、ピアノの先生を紹介するよとか、ピアノやりましようとか、ずっと耳元で囁かれていたという伏線があって、それで去年の音楽祭の時に、やはりピアノをやりたいなという気持ちになっていた。音楽祭が終わった時にピアノをやりたいと母に相談し、自宅へのピアノ移設の話をしたのだった。

それで、今回の食べ飲まの翌日、ピアノの先生においでいただいた。先生はようやく来れたわと、早速レッスンが始まった。まずは、私がどれだけ弾けるかをチェックしようだった。もう大人だから、ハノンとかやらなくていいから楽しく弾きなさいとおっしゃってくださった。先生は「先生と呼ばないで」というので、そこからマリさんとお呼びすることにした。

マリさんはいろんな楽譜をご用意してくれていたが、我が音楽祭のキーパーソンでもあるピアニスト野平一郎さんのピアノ曲集「音の旅」を私が持っているのが目に止まり、これがいいわと最初の曲「はじまり」を弾くことになった。これは野平ご夫妻に誕生日プレゼントで「ピアノを始めるのなら」と頂いたものだった。思い返せば、もうこうやって外堀はどんどん埋められて

弾奏

文字：石渡美奈

いたのだ。

それで、「はじまり」をポロリポロリと弾いてみた。確かに弾きやすい。自分でもびっくりしたのだが、音譜が読めている。いちいち線が何本でとかやらなくても、30年も離れていたというのに、楽譜が読めて、初見で弾けてしまっているではないか。マリさんも一緒にいた横川さんも、これだけ弾けるならなんら問題ないねと太鼓判を押してくれた。もちろん指は以前のように

には動かないから大変だけど、自分でもびっくりするくらい。体が覚えているってこういうことなんだなとわかった。野平さんの曲は弾きやすくて楽しくて、ピアノを弾くのが面白いと新鮮な思いがした。

ピアノを弾いている時は他のことを一切考えていない。むしろ曲に入り込んで、ここが弾けないとか、こう弾きたいとかだけになる。それがいい。ピアノを弾き

音楽は一生の趣味になると思う。音楽は、脳にいつも使っているのとは違う刺激を与えてくれる。だから、心底リフレッシュできる。料理の好きな人は、仕事で凹んだ時など家に帰って料理しながら気分を切り替えるというのが、私の場合、それに通じるのがピアノだ。

たくなるのは、主に落ち着いている時だ。いろいろ物理的に案件が重なっている時は、ピアノになかなか向き合えない。かと思えば、気分がざわついている時は、心に柵を入れるようにピアノを奏でたくなる。

ピアノを再開したことで、ものを見る目も広がった。先日マルタ行きでは、ピアノにかけようと名産のマルタレースを買ってきた。私の生活の中にレースなどかつて存在しなかったというのに。ホテルのロビーな

どに置いてあるピアノにも目が向くようになった。出張中だからピアノが弾けないと思っていたら、うわ、ここにピアノがある、暗譜している曲があれば弾いちゃうのにと、先日も旅先で思った。

子供の頃、いやいやながら続けていたピアノだったが30年もの空白の後、体が音符を覚えていたことにとっても感激した。いやいやながらやる私に負けずピアノ

を続けてさせてくれた母に感謝の気持ちでいっぱいだった。三つ子の魂百までとはこのことだと思った。30年経ってピアノの本当の楽しさを感じている。お陰様でまだ公開はさせていただいていないが沢山の目論見が私の心を去来している。ピアノがまた私の仕事を更に楽しくしてくれそうだ。50歳を迎えるにあたり、生涯続けられる趣味と再び出会えたことに感激の毎日である。

過去最高の盛り上がり。 第11回赤坂食べないと飲まナイト

10回目というひと区切りを終えて、新たな一歩を踏み出した赤坂食べないと飲まナイト。それは、オープニングの特別イベントから盛り上がった画期的な夜となりました。初日16日(火)は、午後6時から記念イベント「NY Night in Akasaka」を開催。会場には、ニューヨークを拠点に活動する氷のアートデザイン会社「OKAMOTO STUDIO」による巨大なアイスバーが出現。バーカウンターがすべて氷という見たこともない空間は、おそらく日本初。グラインダーで氷を削って落書きできるアイス・グラフィティウォールや、同スタジオのオーナー兼クリエイティブディレクターの岡本慎太郎氏をはじめとする氷彫刻家(アイスカーバー)による氷彫刻のライブパフォーマンスも披露されました。用意したスペシャルカクテル200杯は、開始わずか30分で完売するという盛況ぶり。ここから赤坂の街に繰り出し、氷彫刻が気になってまた戻ってくるという方



も多数見受けられ、アイスバーが赤坂食べ飲まのハブの役割を担っていました。

この「NY Night in Akasaka」の影響もあってか、2日目もより多くの参加者があり、チケットは前売りも当日券も過去最高を更新、前回比で120%の

売り上げを記録しました。特に2日目の当日券は、チケット販売所では初めて完売となるほど。毎回参加のベテラン食べ飲まファンはもちろん、初めて参加という方もどんどん増えて、それぞれが赤坂の夜の2日間を存分に楽しめました。



今年も音楽のある夏に。 軽井沢国際音楽祭 2017 開催

8月18日(金)～23日(水)

今年も国際的避暑地の夏の軽井沢で音楽祭が開催される。その記者発表が、5月中旬にあった。今年の音楽祭のテーマは「ボヘミアン」。いみじくも、日本におけるチェコ文化年ということで、会場にはチェコ大使館の方も見えになっていた。メインの3日間のコンサートは以下



下の通りで、会場はいずれも軽井沢大賀ホール。ホワイエには、ホッピー軽井沢バーがオープン。音楽祭オリジナルカクテルをお楽しみいただける。今年のカクテルは「ルサルカ」。キルシュヴァッサー、カシス、ゴードンジンに黒ホッピーを加えたもので、赤すぐりの実が入っていて、刺激的な味だ。

なお、前売り券は、軽井沢大賀ホールの窓口とチケットぴあからお求めいただける。



オープニング・ガラ・コンサート 8月18日(金) 15:30 開場/16:00 開演

音楽祭の幕開けに、フランス人アコーディオン奏者パトリック・ヌジエ、軽井沢にゆかりのギタリスト尾尻雅弘、当音楽祭に欠かせないアーティスト小林美恵のヴァイオリンで、今年の音楽祭のテーマ「ボヘミアン」の音楽を奏でます。

Happy Hour Concert 8月19日(土) 12:30 開場

休憩時間にオリジナルホッピーカクテルを楽しみながら聞く、1時間ずつの室内楽コンサートです。3つのプログラムをご用意しました。それぞれの幕間に45分間の休憩を挟みます。

- ① N響メンバーによる弦楽四重奏と音楽祭管楽器奏者とともに味わうチェコ音楽 13:00～14:00
- ② 植松透と東京楽竹団 14:45～15:45
- ③ 音楽祭名手たちの饗宴 16:30～17:30

フェスティバルオーケストラコンサート 8月20日(日) 14:00 開場/14:30 開演

音楽祭アーティスト、講習受講生などによる1日限りのオーケストラ。今年はドヴォルザークとブラームスの名曲をたっぷりと。

老舗中華料理をホッピーで。 重慶飯店別館 HOPPY FESTA 今年も開催！



◆コースメニュー

- 突き出し：麻辣花生
- 1：季節の前菜盛り合わせ
- 2：生ホタテ、文甲イカの四川風辛味炒め
- 3：黒毛和牛の四川辛し炒め
- 4：海鮮のカダイフ巻き揚げ
- 5：エノキ茸と冬瓜、蟹肉入りのフカヒレの煮込み
- 6：豚のすね肉を黒ホッピーで煮込みました
- 7：麻婆豆腐の饗宴
- 8：桜海老のチャーハン
- 9：苦瓜のプリン

お飲み物はホッピー、黒ホッピーをはじめ、紹興酒、レモンサワーなどもお楽しみいただけます。

8月1日(火) 予約制 限定180名様

時間：18:00開場 18:30～21:00 価格：お一人様7,500円(税・サービス料込み)

人数：限定180名様 会場：重慶飯店 横浜中華街 別館

ご予約・お問い合わせ：電話 045-641-8386

横浜中華街の名店、重慶飯店別館のHOPPY FESTAが、この夏、また戻ってくる！今年は、これまでのビュッフェスタイルから着席スタイルとなり、落ち着いた雰囲気の中で、お店自慢の人気メニューを揃えたコース料理をお召し上がりいただけます。

もちろん、ホッピーは飲み放題。存分にお楽しみください。また、お楽しみ抽選会では、ローズホテル横浜の宿泊券など豪華賞品が当たります。席には限りがありますので、お早めのご予約を。皆様のお越しをお待ちしております。

【編集後記】 賛否両論なモンドセレクションですが、この度金賞を頂き、特に生産技術部門の社員達のとても嬉しそうな様子、最高金賞を目指して燃えている彼らから、モンドセレクションの効用を感じています。日々、頑張ってくれている社員達のためにもなんとしても最高金賞を頂こうと、メラメラな毎日です。(37)

Hoppy Magazine (ホッピーマガジン) 第47号(隔月発行) 2017年7月発行

編集長：石渡美奈 CD：齋藤利也 制作：サイトウズキ事務所 デザイン：三門真嗣デザインスタジオ

発行：株式会社ホッピーミーナ 〒107-0052 東京都港区赤坂2-15-12 ☎0120-5137-88 www.hoppy-happy.com 印刷：株式会社和田フォトリソ印刷





初代石渡秀は信州に千曲飲料合資会社をつくった時、その地にホップがあることを知り、国策ビール会社の専有状態にあったホップを、尽力の果てに手に入れた。

ホッピーはビールと同様に麦芽と酵母とホップでつくる。しかし、ビール粕でつくっているなどという心無い中傷があり、2代目石渡光一は忸怩たる思いでいた。

「うちがビールを出せば、そんな嘘は払拭できる。ビールをつくることなんてわけないのに」。

やがて規制緩和の波がおとずれ、ビール免許が取れるようになった。真っ先に手を挙げた石渡光一は、手続きのわずかの差で日本で5番目に地ビールの免許を得た。そして、最初に作ったのが赤坂ビールだった。

うちでもビールがつくれるんだと、父の反対を一年がかりで説得し入社してきたのが3代目ホッピーミーナだった。そして、赤坂ビールの末娘ルビンロートの開発に立ち会い名付け親となったのが、製品に携わる最初の一步だった。赤坂ビールには、こんな親子三代のバックストーリーが隠れている。

赤坂ビールのピルゼン、ミュンヘン、ルビンロートは、この度、モンドセレクション2017において、金賞をいただきました。これもひとえに皆様方のご愛顧のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございます。